

北海道紋別市

積極的な機械導入で林業現場を意識改革 中心的な存在として地域林業を活性化

1932年、豊富な森林資源を有する紋別市で下駄製造会社として創業。下駄や割箸の生産を主体とした事業から、トドマツ間伐材の製材事業へとシフトした。また、カラマツの構造用集成材やトドマツとカラマツの集成材も開発した。さらに、ハーベスタ導入をはじめとした、高性能林業機械を次々と採用し、全国の林業現場に意識変革をもたらした。現在では、網走西部流域における中心的な存在として地域活性化にも取り組んでいる。

●所在地	北海道紋別市上渚滑4丁目1番地	●設立	1932年
●電話/FAX	0158-25-2031/0158-25-2808	●資本金	9,450万円
●URL	http://www.satohmokuzai.com/	●従業員数	94人
●代表者	代表取締役社長 佐藤 教誘		



生産性向上

ものづくり

積極的な機械導入で作業効率化による人手不足解消を図る

同社は、自動結束機やツインバンドソーによる間伐材加工、自動選木機・レーザーによる原木の選木、全自動木材乾燥機によるムラのない均一乾燥、最新技術のプレス機による高品質な構造用集成材の生産等、早くから機械導入による業務効率化を推進し、全国の林業現場に意識改革をもたらした。伐採、枝払い、計測等を1台で行える高性能ハーベスタの導入では、機械研修のため若手社員4名を製造元のフィンランドへ派遣し、機械操作を習得させた。帰国後は同僚社員への技術指導を担い、作業効率化と人材育成を両立して、人手不足の解消が図られている。



ハーベスタによる伐採作業

高い技術力を背景とした信頼とブランド力で、全国に販路を拡大

「自然循環型の木材」と「高い技術力」を強みとする同社は、緑の循環「森林認証」(SGEC)を受けた「オホーツク森林認証材製品」を取扱い、東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムとなる「新国立競技場」でも採用される等、大手商社を通じて全国に販路を広げている。また、社有林だけでなく網走西部地区の複数企業から木材を仕入れて販売している同社は、同地域におけるコネクターループ企業として、地域未来牽引企業にも選定されている。



同社のオホーツク森林認証材製品

正社員雇用、定年後雇用の給与維持によるシニア人材活躍

長期的展望に基づく安定した企業経営を行うため、その大半を正社員として雇用している。また、会社の定年は60歳であるが、本人の希望により、給与を維持したままで、継続就労が可能となっており、70歳を超えたシニア人材も活躍中である。このような同社における人材の有効活用・高齢化の対策は、人手不足解消に留まらず、地域の雇用の維持・創出に大きく貢献している。



新国立競技場へ製品の納入